

第10回ITER職員募集説明会(つくば)での Q&A

1. 日時・場所

平成 20 年 9 月 12 日(金) 18:30-19:45
つくば国際会議場

2. 参加者: 9 名

4. 説明内容:

- ・ITER 計画の概況
- ・ ITER 機構職員公募の状況
杉本 誠 ITER 協力調整グループリーダー
- ・ITER 機構職員公募の面接試験について
安東俊郎 ITER 協力調整グループサブリーダー

5. 説明会での Q&A

Q1: ITER サイトは更地とのことだが、池田機構長等はどこにいるのか。

A1: 現在は、隣接する CEA カダラッシュ研究所内の仮事務所にいる。

Q2: 何度も同じ職が募集されているが、Reposted position と Replacement はどちらが多いのか。

A2: Reposted position が多い。適した人物いない場合には再募集を行う。

Q3: 日本からの合格者は何名か。

A3: 専門職員については、これまでに 48 名応募して、28 名が面接を受け、合格者は 8 名である。

Q4: 日本人で ITER 機構を辞めた人はいるのか。

A4: 1 名派遣元に戻った。戻るのは当初からの予定だった。

Q5: 面接でインタビューするのはどのような人なのか。

A5: 応募職のグレードが高い場合(例えば D-1 クラス)は、PDDG と DDG、人事担当などがインタビューアーになるが、グレードが比較的低い場合(例えば P3-P4 クラス)は、応募する DDG、DH、関連する DDG、人事担当などとなる。

Q6: 職員の4割を欧州が占めているが、フランス人が多いのか。

A6: フランス人が多いということは無く、ヨーロッパ全体から来ている。現地採用が多いのは、Support 職である。Professional については、採用地域差はない。なお、日本からの Support 職は 4 名。

Q7: 雇用期間の後は、ITER 機構を辞めなければならないのか。

A7: 他の国際機関と同様、ITER 機構では、期間の延長が認められている。本人の働き具合で、延長も可能である。

Q8: ITER 機構への雇用の後、現在の勤務先に戻ることができるのか。

A8: 現在の勤務先の人事制度による。ITER 機構は雇用後の人事には関与しない。

Q9: 産業界などから、ITER 機構の職員以外の身分で ITER 機構に行く場合はあるのか。

A9: Visiting Researcher として派遣されることはある。また、機器の据付・調整などで短期間 ITER 機構で仕事をすることもある。

以上